世界の成長センター　アジアを取り込め

北九州

新市場開拓に力

北九州地域の経済は東日本大震災の影響による生産や出荷の落ち込みを脱し、回復基調が鮮明になってきた。日本銀行北九州支店が7月1日に公表した管内経済概況によると、生産と輸出はほぼ震災前の水準に戻り、個人消費も下げ止まりつつあるとしている。自動車については6月から震災前に計画した生産水準に回復し、今後は計画以上の増産が見込まれる。

九州の底力

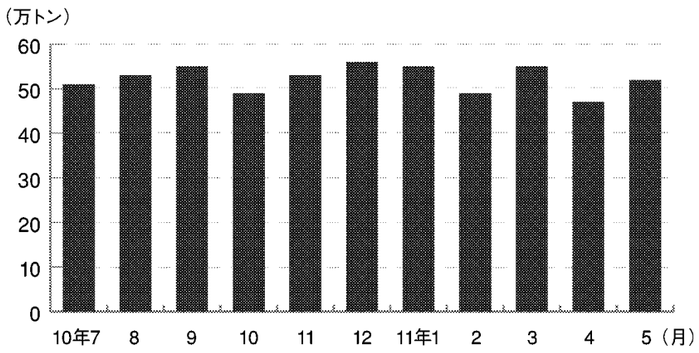
回復基調　一段と明確

基幹産業である鉄鋼は中国の鉄鋼生産量が増加した影響から、輸出が伸び悩み、一時的に生産水準を若干落としている。ただ自動車生産台数の増加で鉄鋼生産量も増えていくと見られる。自動車や鉄鋼の仕事を手がける地場企業は多く、今後の見通しは明るいと言えそうだ。ただし中長期的には円高の進行や原子力発電所再稼働延期による電力供給不安など、産業の空洞化が一層進む可能性をはらんでいる。

日銀北九州支店が毎月公表している管内金融経済概況は、北九州市および周辺の行橋市、豊前市、京都郡、築上郡が対象地域。7月の基調判断を「回復基調が一段と明確になってきた」とし、6月の「震災前のゆるやかな回復基調に復しつつある」から表現を引き上げた。

生産を業種別に見ると化学が原材料の調達難から生産水準が低下、鉄鋼も若干であるが低下している。それでも電気機械、自動車、電子部品など他の業種はいずれも好調だ。今後は震災復興需要も出てくることが予想され、「10月以降の経済はV字回復すると見ている」（長野聡前日銀北九州支店長）。

日銀北九州支店管内の鋼材生産量



海外拠点の拡充急ぐ

安川電機は2012年3月期の業績について、大幅な増収増益になるとの見通しを公表した。インバーターが中国をはじめインドなど新興国で急激に販売量が増えている。またロボットについても中国、米国、欧州の需要が拡大している。

こうした海外需要に対応するため、海外拠点の拡充を急いでいる。今年5月にはインド初の拠点となるインバーター工場を稼働し、現地向けに供給を始めた。初年度の生産計画は約1万5000台。インフラ整備の進展に合わせポンプや水処理施設などで使われるインバーターの需要が増えると見て、早くも生産ラインの増設を決めた。12年3月までに生産ラインを増設し、生産能力を年6万台に引き上げる。

インバーターは日本と中国両工場でも生産能力を増強する。生産能力をそれぞれ年10万台引き上げ、増強後の能力は日本110万台、中国60万台となる。日本は生産量のうち輸出がおおよそ半数を占める。今回の能力増強分も一部は中国への輸出に振り向ける。中国は11年3月期も生産能力を増強したが、需要に供給が追いつかない。エアコンやエレベーターなどの生産拡大に伴い、インバーターの需要も増加しているためだ。

他の大手企業も海外事業拡大に動いている。黒崎播磨はインド製鉄大手タタ・スチールから同国耐火物最大手のTRL・クロサキ・リフラクトリーズ（旧タタ・リフラクトリーズ）を買収した。5月末付で株式の51％を104億円で取得、連結子会社化した。浜本康男社長は「これから伸びる市場はインド」と買収理由を説明する。インド政府は同国粗鋼生産量を10年度6600万トンが19年度には4・5倍の2億9500万トンに拡大すると予測する。

黒崎播磨は10年に米国でブラジルの同業と合弁会社を設立、中国には統括会社を設けるなど矢継ぎ早に海外事業を強化している。今回の買収で売上高の海外比率は3割を超え、連結売上高で世界3位の座に手が届くところまできた。海外事業の成否が成長のカギを握る。

C&Gシステムズは金型用CAD／CAMシステムの海外市場開拓を本格化するため、戦略製品と位置づけた新製品を発売した。売上高に占める海外比率は10年12月期で約20％。早ければ13年3月期にも50％への拡大を目指す。製品のサポート体制を構築したことで今後は「現地ユーザーの開拓を急ぎたい」（山口修司社長）としている。

製造業以外でも第一交通産業が10年5月、中国上海市に上海駐在所を開設した。中国の市場調査やタクシーの備品調達などを行うのが目的だ。11年7月には大連市の大連星海会展集団と業務提携を結んだ。大連星海会集団は展示場やゴルフ場などを運営する。今後は中国から日本への旅行商品の開発などを行う計画だ。

安川電機はインドでインバーター工場を稼働した

営業強化し販路拡大

地場中小企業も中国などアジア地域の市場開拓を進めている。アジア技研（北九州市小倉北区）は現在、シンガポールや韓国、中国、台湾に代理店契約した会社があり、スタッド溶接機の輸出は増加傾向にある。それでも現在の海外売上高比率は5％。今後は「いかに海外売上高の比率を高くしていくか」（溝口純一社長）が大きな経営課題だという。

同社が2月に発売したスタッド溶接ロボットは海外工場での利用を意識して開発した製品だ。ウインドウズを基本ソフト（OS）に採用し、インターネットを通して遠隔地からスタッド溶接ロボットの制御や管理、プログラム修正などの作業を可能にしたのが大きな特徴といえる。

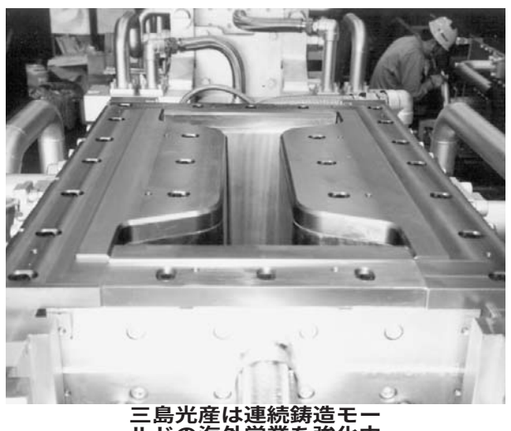
ユーラステクノ（同八幡東区）と松島機械研究所（同八幡西区）は、海外売上高比率5割を目指して製品開発や営業体制を強化中だ。ユーラステクノは産業用バイブレータ「ユーラスバイブレータ」を刷新した。標準機種を屋内型から屋外型へ変更し、耐環境性を向上させた。またカナダ規格協会から電気製品に関する安全規格「CSA」の認証を取得した。海外の規格取得は欧州の「CEマーク」に次ぐ2件目。カナダでは鉱山の設備などに販売を拡大したいとしている。

松島機械研究所は9月までにタイと中国に営業所を新設する。国内市場の大きな伸びが見込めない中、海外市場の開拓を進める。タイではバンコクに初の営業所を開設し、中国には西安市に同国2カ所目の営業所を設ける。鉄鋼や非鉄などの顧客を開拓し、海外売上高比率を11年3月期の2割弱から16年3月期に「5割へ引き上げる」（松島徹社長）計画だ。

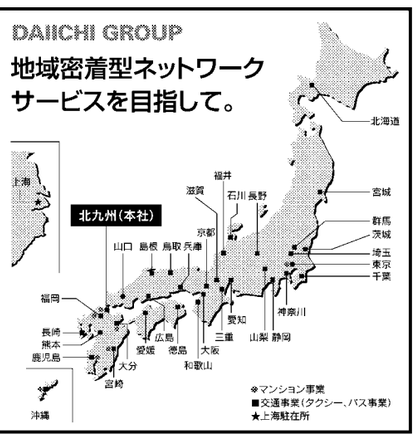
また三島光産（同八幡東区）が手がける、製鉄所向けの連続鋳造モールドは国内シェア7割を誇る。現在はインドなど新興国で製鉄所の新設計画があることから、海外向けの営業を強化中だ。

北九州市は10年6月にアジア低炭素化センター（同八幡東区）を開設。市内事業所が持つ環境関連技術のアジア地域への移転を推進する。同市は4大工業地帯として発展し、その過程で深刻な公害問題を引き起こし、行政と企業は解決に大きな力を注いだ。結果的に環境関連の技術が蓄積。同センターは個々の企業が持つ環境関連技術をパッケージ化し、ビジネスベースで技術移転を図る。

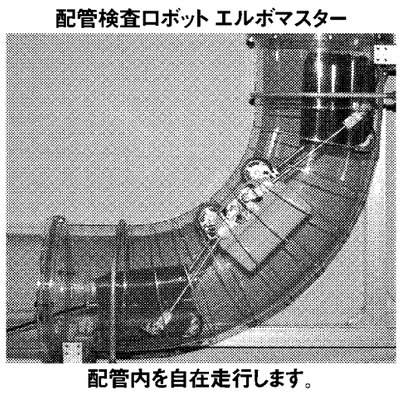
2月に発売したスタッド溶接ロボットは海外市場攻略の戦略製品（アジア技研）


三島光産は連続鋳造モールドの海外営業を強化中

あなたの街で、あなたとともに。

タクシーを中心に広がる、さまざまな事業。
●タクシー事業　●バス事業　●不動産分譲事業　●不動産賃貸事業　●通信販売事業　●自動車整備事業
●ファイナンス事業　●パーキング事業　●介護サービス事業　●ゴルフ練習場　●ソフト開発事業　●情報通信事業 etc.
DAIICHI GROUP
地域密着型ネットワークサービスを目指して。


明日の快適生活環境を創造する
第一交通産業グループ　DAIICHI
本社／〒802-0077　北九州市小倉北区馬借2丁目6番8号　TEL.093-511-8811
◎第一交通産業HP・・・・・http://www.daiichi-koutsu.co.jp/

“診る”を究めて
SHK 新日本非破壊検査株式会社
本社
〒803-8517　北九州市小倉北区井堀4-10-13
TEL:093（581）1235　FAX:093（571）5008
http://www.shk-k.co.jp　e-mail:eigyou@shk-k.co.jp
東京
〒108-0023　東京都港区芝浦3-20-6　芝浦MYビル4F
TEL:03（5443）8591　FAX:03（5443）8593
e-mail:tokyo@shk-k.co.jp
配管検査ロボット エルボマスター

配管内を自在走行します。

スチールからマグネシウム合金まで！スタッド溶接システム&工業用ファスナー
経済産業省 ものづくり日本大賞優秀賞
マグネシウム合金プレス成形品へのボス・ねじ溶接システム
■マグネシウム合金スタッド溶接装置
マグネシウム合金板プレス成形品への
専用ねじ溶接に！
溶接痕が殆んど出ない！
PAT-P【マグネシウム合金スタッド使用例】

携帯電話ボディ
PDAなどのモバイル機器ボディに
米国特許取得 No.7335849
スタッド溶接システム
鉄・ステンレス・アルミ・チタンの
スタッド溶接ロボット
スタッド
セルフクリンチング
ファスナー
ASIA IKEN
アジア技研株式会社
http://www.asiagiken.co.jp
E-mail : info@asiagiken.co.jp
本社工場　〒803-0801 北九州市小倉北区西港町72-39　TEL:093-562-0170　FAX:093-562-0250
東京営業所　〒142-0063 東京都品川区荏原2-1-8 1F　TEL:03-6421-6665　FAX:03-6421-6668
名古屋営業所　〒462-0810 名古屋市北区山田1-11-9 2F　TEL:052-910-0710　FAX:052-910-0711
岡山営業所　〒700-0088 岡山市北区津島笹ガ瀬4-4 1F　TEL:086-250-7861　FAX:086-250-7862